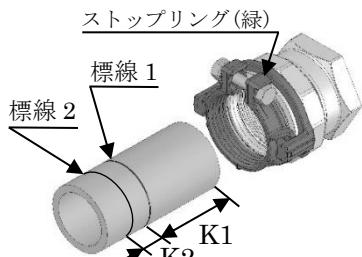


SKX® 施工手順 (水道用銅管 2形用)

①パイプ挿入量記入

パイプ挿入量(K寸)を測り、標線を2本記入して下さい。

分解せずにストップリングとキャップが接した状態で標線1まで挿し込んで下さい。



注1)

- ・パイプ切断のカエリは取り除いて下さい。
- ・滑剤の塗布は不要です。
- ・管止めがある場合は、管止めから3mm以上あけて施工して下さい。

②キャップ仮締め

本体とキャップを十分手締め(素手もしくはスペリ止め付グローブで締まらなくなるまで)

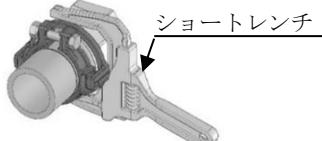
した後、マジック等でマーキングして下さい。

注2)

- ・十分な手締め(素手)は8N·m程度です。
- ・十分な手締めは管を引っ張っても抜けない程度まで締めて下さい。
- ・手袋使用の場合は、スペリ止め付グローブを使用して下さい。

③キャップ本締め

ショートレンチにてキャップを標準締付回転数(参考締付トルク)で締め付けて下さい。



注3) 低温時は通常より1/4回転増し締めして下さい。

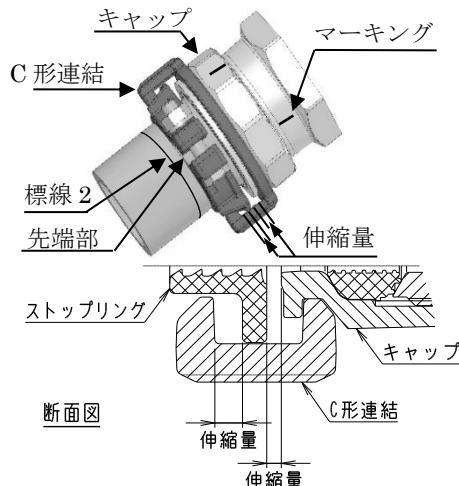
④ストップリング本締め

C形連結を中心方向に押えながら、ストップリングを締めやすい位置にして下さい。

ストップリングが2本の標線の間かつ両端伸縮量を保った状態で、

呼び径15~25:先端部を当て締めして下さい。

呼び径32、40:スキマ管理で締め付けて下さい。



注4) 当て締め後さらに締め付けすぎると破損などの不具合が生じことがあります。

注5) 管とストップリングが直角になるように締め付けて下さい。

注6) 再施工時は再施工手順書に従って下さい。

⑤施工完了・施工手順チェックシートへの記入

ストップリング端面が2本の標線の間にあることを確認してください。

キャップとストップリングの締め忘れのないように確認を行って下さい。

《管の取り外し》

・ストップリング締付ボルト・ナットとキャップを緩めるだけで管と分離可能です。(分解不要)

外れににくい場合は、ストップリング締付部を開放工具で広げることにより、管と分離可能です。(分解不要)

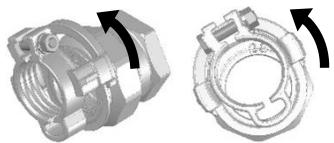
管呼び径	SR呼び径(緑)	本体呼び径	K (mm)		キャップ		ストップリング(参考締付トルク)(N·m)	六角対辺
			K1	K2	十分な手締め後回転数	参考締付トルク N·m		
15	Cu②15	V13	50	5				
20	Cu②20	16						
25	Cu②25	Su25	55	5				
32	Cu②32	25						
40	Cu②40	32	60	5				

※太字: 基準値

SKXストップリング (SR) 交換手順

①C形連結取り外し

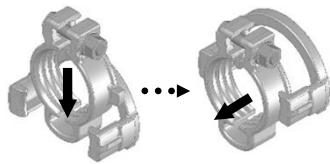
C形連結の一方を支点とし、他方をプライヤー等で回し、取り外す。



③ストップリング交換

適用管用SRとC形連結を合わせ、SRを下方向に入れ、C形連結から離す。

※右図のように、ボルト・ナットを上にして、向きが逆にならないように注意する。



②ストップリング取り外し

SRとC形連結を合わせ、SRを上方向に抜く。



④C形連結取付

C形連結をキャップの外溝に合わせて、C形連結上部を木槌等で軽く叩いて入れ、完了。

